

令和5年度鹿児島市小中連携研修会 報告
 【黒神小学校・黒神中学校】

1 研究主題

極小規模校における効果的な小中連携
 ～ 小中全職員で育てる黒神の子 ～

2 主題設定の理由

黒神小学校、黒神中学校は両校とも極小規模校で児童生徒数は少ないが、児童生徒は、明るくのびのびと学校生活を送ることができている。両校はこれまで極小規模校の特性を生かしながら、児童生徒一人一人に多くかかわり、各種行事の共同実施や乗り入れ授業等を行ってきた。児童生徒数は今後も少ない状況が継続すると考えられることから、各種教育活動を効果的に進めるためには、小中学校間の連携は、非常に有効であり、不可欠であると考えられる。子どもの発達段階を考慮し、小中学校を通して成長を見守り「黒神の子」を育てるために上記主題を設定した。

3 研究の実際

(1) 第1回小中連携研修会（令和5年6月5日）

① 日程及び内容

13:45	13:50	13:55	14:40	15:00	15:30	16:15	16:20
受付 (5)	開会行事 (5)	授業参観 (45)	準備・移動 (20)	協議Ⅰ (30)	協議Ⅱ (45)	閉会行事 (5)	

② 授業参観

学年	教科	単元（教材名）	場所	指導者
4年	社会	ごみのしよりと利用	4年教室	浦口 真樹



③ 全体会

全体会名	進行	司会	記録	指導助言
	氏名・所属	氏名・所属	氏名・所属	氏名・所属
協議Ⅰ	上戸 洋平 黒神中	上戸 洋平 黒神中	有馬 耕平 黒神中	野村 浩二 黒神中
協議Ⅱ	浦口 真樹 黒神小	浦口 真樹 黒神小	折尾 真紀 黒神中	富永 章文 黒神小

ア 協議Ⅰ【授業研究】

I C T機器の活用が、「学習内容の反復練習や振り返りに生かされ、学習内容理解の手助けになっているか。」という視点をもとに授業研究を行った。

効果的なI C T活用法として、児童が児童用タブレットを使用して回答をテレビ画面に送信したり、インターネットを利用して調べ学習を行ったりする際の手立について実践例や提案があり、質疑応答を行った。

イ 協議Ⅱ【生徒指導に係る小中連携の在り方, 令和5年度活動計画】



＜生徒指導に係る小中連携の在り方＞

生徒指導上の課題等について協議を行った。教室や学校で友だちと触れ合える場がないため、小中学校とも他校との交流の機会について意見交換を行った。

＜令和5年度活動計画＞

プール清掃, リサイクル活動, 運動会, 椿油製造・販売の進め方について説明等が行われた。運動会については、前年度の反省をもとに協議を行った。

(2) 第2回小中連携研修会（令和5年7月31日）

① 日程及び内容

9:00	9:05	9:10	10:10	12:05	12:10
受付 (5)	開会行事 (5)	全体会 (50)	新設小中学校説明等 (55)	閉会行事 (5)	

② 全体会【運動会, 椿油製造・販売, 新設小中学校について】

ア 運動会について

合同行事の実施内容, 準備等について協議を行った。児童生徒数の減少に伴う組数の削減や児童生徒の割り振り, 実施競技内容等の見直しについて協議を行った。

イ 椿油製造・販売について

昨年度の反省をもとに, 椿の実拾い活動や各種準備, 販売の実施方法について協議を行った。椿の実拾い活動は, 昨年と同様に桜峰小学校も加わった3校合同での作業とすることを確認した。

ウ 新設小中学校について

鹿児島市教育委員会学校整備室から令和8年度の開校に向けて現況報告が行われ, 意見交換を行った。

(3) 小中行事等調整会（令和6年2月16日）

令和6年度の行事等の実施予定日について、2月16日（金）に小学校で調整会を行った。必要に応じて実施日を同じにした。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・ 行事を合同で行うことで、児童生徒と職員間や児童生徒間、職員間で親交を深めるよい機会となった。また、小中連携研修会では、行事内容等を中心に、小学校、中学校独自の行事についても確認することで貴重な情報共有の時間となった。
- ・ 職員間で連携を取り合うことで、児童生徒や保護者、地域の方の情報を共有することがき、学校運営や指導に役立てることができた。

(2) 課題

- ・ 児童生徒の在籍数が各学年1人のため、話し合い学習や集団行動の場の設定が難しい。他校との交流学习の機会を増やしていく必要がある。
- ・ 少ない人数で運動会等の行事を実施するため、可能な限り行事内容の精選や改善を行っていく必要がある。